

2022 年度ミニ観察会 ー少人数でじっくり観察しようー

海辺の昆虫と植物観察

主催：NPO 法人自然観察大学 担当講師：山崎秀雄、飯島和子

葛西臨海公園は 1972 年に造成がはじまりました。植栽木は国内の各地から導入したようで、それに伴って関東では見慣れない植物があります。昆虫ではクマゼミやサツマゴキブリ、ゴモクムシダマシなどが植栽木について入ってきたものと思われます。

それがよいことかどうかは問題ですが、今回それは置いておき、観察をたのしみしました。葛西渚橋を渡ると葛西海浜公園です。今回は西なぎさを観察しました（東なぎさは環境保護のため立ち入り禁止）。

今回は昆虫を山崎秀雄先生、植物を飯島和子先生に担当していただきました。

※ このレポートで掲載した写真は NPO 法人自然観察大学およびその関係者のものです。（禁無断転載）



今回の観察ルート。植え込みなどを抜けて西なぎさへ。



ヒガンバナにしては開花が早いが…

● ヒガンバナの花

中央園路近くの斜面にヒガンバナが開花しています。9 月初めのヒガンバナはちょっと早いですね。

ネットではこの公園内にはコヒガンバナが多いとの記載が多数あります。コヒガンバナは開花が早いとのことなので、コヒガンバナでしょうか？

筑波実験植物園の植物図鑑によると、コヒガンバナは種子ができる 2 倍体のヒガンバナとの記載があります。

このヒガンバナがどちらでしょうね。

種子ができる場所に確認したいと思います。

● アオドウガネと ヤマトアオドウガネ

ヤマトアオドウガネとアオドウガネが同時に見られました。両種はよく似ていますね。

アオドウガネはこの 30 年ほどで関東でも急激に増えてきました。以前たくさん見られたドウガネブイブイと入れ替わってしまったようです。ヤマトアオドウガネは古くからいましたが数は少なくてあまり見ることはできません。

今日ここで見られたのはラッキーですね。



アオドウガネ(左)は前翅の前縁の細い反り返り(矢印)が後方まで続く。ヤマトアオドウガネ(右)は途中でなくなる。肉眼でも確認できるが、ルーペで見れば明瞭。

● アワダチソウグンバイとヘクソカズラグンバイ

ヒマワリの葉にかすれたように色の抜けたところがあります。

これはグンバイムシが吸汁した痕で、葉の裏を見ると虫がいます。アワダチソウグンバイといって、ヒマワリやセイタカアワダチソウなどのキク科植物につきます。

小さな虫ですが、拡大して見ると相撲の行事が持つ軍配のような形です。翅のほかに膜状の突起があって、風に乗って移動します。

※ この日は虫の個体数が減ってしまい、中には見られなかった方もあったようです。

近くのヘクソカズラにはヘクソカズラグンバイがいました。こちらはさらに派手な飾りがあります。私はこれを“グンバイ界の小林幸子”といわせてもらっています。



アワダチソウグンバイ (グンバイムシ科)。体長 3mm 内外。キク科植物の葉裏につく。帰化種。



ヘクソカズラグンバイ (グンバイムシ科)。体長 3mm 内外。ヘクソカズラ (アカネ科) の葉裏につく。帰化種。

● クスノキの新旧の葉

この公園には多数のクスノキが植栽されています。クスノキは成長が早いので巨樹が多いですね。

葉のようすを見てみましょう。枝先には黄緑色の新葉が出ていますが、同時に紅葉しているものもあります。

ちょうど葉が入れ替わっているところですね。普通、葉の交代は春に見られますが、春に比べると少ないですが、このように秋にも交代します。

常緑樹であるクスノキの葉の寿命は 1 年から 2 年といわれます。



クスノキの葉の交代



ヤブガラシの花序とセイヨウミツバチ



ヤブガラシの花とヒメアリ。花床には蜜を豊富に分泌する



コアオハナムグリ



ハラナガツチバチの一種

● ヤブガラシの花と昆虫

ヤブガラシはつるを伸ばしながら巻きひげを出してからみつき、ほかの植物をおおいます。

花序には小さな花がたくさんつきます。

花弁は早く落ちて、オレンジ色の花床(かしょう)がよく目立ちますね。ここにたくさんの蜜を分泌します。

花は終わりに近づいていますが、いろいろな昆虫が見られます。この時期、おそらく一番人気の花ではないかと思います。写真の昆虫のほか、ナミアゲハや花にくる昆虫を捕食するアズチグモなどが見られました。

● イヌビワの実

イヌビワの実が熟してきました。名前はビワですが、分類的にはクワ科イチジク属です。

イヌビワは雌雄異株で、雄株、雌株とも同じような花のうをつけ、イヌビワコバチによって花粉媒介されます。

黒紫色に熟した果のうは食べられます。ビワほど甘くないことからイヌビワと名付けられたという説もあります。



イヌビワの実



● カヤツリグサで蚊帳づくり遊び

カヤツリグサが穂をつけていました。外来種のメリケンガヤツリです。これを使ってみんなで蚊帳づくり遊びをしました。

穂と葉を落とし、三角形の茎の上下に切れ目を入れ、開いて四角形をつくります。慎重に裂いていくようすは大人でも真剣そのもの、うまく蚊帳を作ることができました。

若い方は蚊帳を知らない人もいるかもしれませんが、大人も子どもも手軽に楽しめる伝統的な遊びです。

くわしい蚊帳づくりの方法は自然観察大学ブログで掲載しています。

(<https://sizenkan.exblog.jp/28721160/>)

● 橋を渡って西なぎさへ

なぎさは人工浜ですが、東京湾奥にできる昔の内湾干潟に近い状況になっています。クロマツなどを除けば自然にできた植物群落です。

その昆虫も同様に自然に分布したものです。

海水の飛沫がかかる場所には陸生の植物は生えませんが、陸側では帯状に植生が変わっていきます。



● スナゴミムシダマシの採集と観察

いよいよ、この観察会のメインイベントです。

砂浜で帯状に植生が変わる、その草地の部分にスナゴミムシダマシがいます。

コウチュウ目ゴミムシダマシ科スナゴミムシダマシ属 (Genus *Gonocephalum*) という位置づけで、日本に 23 種が知られています。

全員が小さなスコップと透明ケースを持って、スナゴミムシダマシを探しました。

はじめはなかなか見つからなかったのですが、コツがわかると次々に見つかります。

砂地に枝を広げた植物の下を浅くさうと、スナゴミムシダマシが出てきます。



砂地の上に広がった枝の下を探す



オオスナゴミムシダマシ
体長 11～13mm。海岸砂地性。



オオスナゴミムシダマシ
…と思われる幼虫。針金形



オオスナゴミムシダマシとコスナゴ
ミムシダマシ。みんな大収穫！



コスナゴミムシダマシ
体長 10mm 内外。砂地性



トビイロヒョウタンゾウムシ
ゾウムシ科。体長 6～9mm。海岸性

スナゴミムシダマシの成虫の体形は扁平で硬く脚が短い、砂に潜るのに適した形です。

黒っぽい渋い色で、ほとんどの種は飛ぶことができません。

成虫・幼虫ともに枯れた植物を食べ、乾燥地を好みます。成虫は 1 年以上生きます。

ほとんどの種は夜行性ですが、コスナゴミムシダマシは昼間も活動します。

この日はほかに、トビイロヒョウタンゾウムシとツチカメムシの一種が見られました。

海岸の砂地は生きるには厳しい環境と言えますが、競争相手は少ないのでしょうね。

採集した昆虫はすべてその場でもとに戻しました。

● 海辺の植物観察

波打ち際から離れるとハマヒルガオ、コウボウムギ、コウボウシバなどの草本植物が見られました。

さらに離れるとオオフトバムグラ、メリケンムグラ、シナダレスズメガヤ、コマツヨイグサが見られます。

これらの植物は乾燥や潮風に強い海浜植物と言えます。



砂浜のコウボウムギとオオフトバムグラ

オオフトバムグラはアカネ科の一年草で、砂浜で増えているようです。砂丘が草地化されてしまうというので、駆除の対象とされているところもあるそうです。

メリケンムグラはオオフトバムグラに近縁で、どちらも帰化植物です。

2 か月ほど前にこの砂浜で観察した時は、メリケンムグラの方が目立っていてオオフトバムグラは芽生えの状態でした。今は勢力が逆転していますね。



オオフトバムグラ。花は淡紅色でメリケンムグラよりも小さい



メリケンムグラ。花は白くて毛が目立つ



シナダレスズメガヤ



コマツヨイグサ

シナダレスズメガヤは内陸部でも道路沿いなどで見られますが、ここでは草丈が少し低いようです。コマツヨイグサも内陸部でよく見かけます。

草本植物たちの奥、海岸からさらに離れると、落葉低木のハマゴウの群落が見られます。ハマゴウは砂上に枝を長く伸ばし、所どころから根を下ろして勢力を拡大していますね。

花は時期的に少ないですが、果実がたくさんついています。この果実は海流によって散布されるそうです。

ハマゴウ群落の奥には木本植物のナンキンハゼ、トベラ、クロマツ、オニグルミなどが見られました。これらはいずれも海浜などによく見られる植物です。

海辺で帯状に変わる植生… 植物がこのように住み分けをしていることが実感できますね。



ハマゴウ



ハマゴウの花



ハマゴウの果実



枝を伸ばすハマゴウ



伸ばした枝の所どころから根を下ろす

【参考】

観察会では時間切れで見ることができなかった、オオフトバムグラとコマツヨイグサの地下部を紹介します。どちらも太い根を深く伸ばして、乾燥した砂地でも生育可能であろうと推察できます。



オオフトバムグラの地下部



コマツヨイグサの地下部

● おまけ

観察会終了後に、アメリカネナシカズラを見ました。

遠目で見ると捨てられた魚採りの網のようですが、よく見るとハマヒルガオやイネ科植物にからみついていることがわかります。



遠目には魚採りの網



よく見ると寄生植物



アメリカネナシカズラの花

葉緑体をもたない寄生植物で、帰化種のアメリカネナシカズラと、よく似た在来種のアナシカズラなどがあります。どれなのか悩みましたが、同行していた T.N. さんの持っておられた図鑑で、花柱が 2 本のアメリカネナシカズラであることが判明しました。

T.N. さん、ありがとうございました。ぶ厚い帰化植物図鑑を携行しておられたことに驚きました。

T.N. さんはまだ小学生なのですが、その熱心さにはおそれるばかりです。m (_ _) m

.....

参加いただいたみなさん、山崎秀雄先生、飯島和子先生、担当スタッフの荻原健二さん、ありがとうございました。

9 月になっても暑く日差しが強い一日でしたが、たのしく充実した観察会でした。

撮影協力：桎聡 レポートまとめ：大野透